

## 平成23年 春季研究会のご案内

テーマ 社会科授業づくりにおける教師の専門性の育成と力量形成

—ライフヒストリーをみすえて—

【趣旨】 教師は授業づくりにあたって教材研究を行うが、その教材研究において教師は、人文社会諸科学の専門家とは異なった視点で題材の解釈を行う。その際、実際の教室の子どもの実情に即し、社会科の理念を最大限達成しうる授業ができるように計画し、それを最も合理的に展開することのできるように題材の調査、解釈、整理をしようと努力している。こうした社会科授業と連動した教師の題材に対する思考体系を、近年のアメリカの教育学の世界は、PCK (pedagogical content knowledge) と呼び、注目している。

わが国でも、アメリカのこの研究が、一般教育学によって10年ほど前から紹介されるようになり、わが国の教師のもつPCKの解明をめざす研究が試みられるようになってきた。一方、社会科教育学でも大学教員や学校現場の教師もPCKという用語は使わずとも、なんとなくそうした教師の持つ専門性の存在を意識してきた。

しかし一般教育学が言うところのPCKと、社会科教育学者の考えるそれとの間には、若干の温度差があるように思われる。また、現場の教師が考えるものとも異なるように思われる。社会科の授業づくり（今回は特に中学校段階を中心として）における教師の専門性とは何か。それはどのように形成され、どのように成長していくのか。また成長させていくためにわれわれは何をすべきであるのか。

4氏それぞれの立場からの考えを聞き、その中で教科指導、特に社会科教師の専門性という問題とその育成について、会場とともに深く協議をしたいと考えている。

【話題提供者】	福井大学教育地域科学部	八田 幸恵
	(一般教育学からPCKの研究を専門とし現状と課題の話題)	
	鳴門教育大学学校教育学部	梅津 正美
	(社会科教育学研究者として教師の専門性育成プログラムを開発する側からの話題)	
	千葉市教育センター	青木 一
	(行政の立場からベテランのリーダー的教師として若手の専門性育成についての話題)	
	豊島区立池袋中学校	関根 憲一
	(一般の学校現場の中堅社会科教師として自己の専門性の向上についての話題)	
【コメンテーター】	東京学芸大学教育学部	坂井 俊樹
【司 会】	筑波大学附属高等学校	野口 剛
	東京学芸大学教育学部	渡部 竜也

主催 日本社会科教育学会研究推進委員会  
日時 平成23年5月14日(土) 13:30 受付 14:00~17:00  
場所 桜美林大学 四谷キャンパス 地下1階地下ホール講堂 (Y001)  
(JR四ツ谷駅四ツ谷口、東京メトロ丸ノ内線・南北線四ツ谷駅2番出口より徒歩3分)  
※ 資料代 500円